

今回の茶ろんは、カメラを持って現地へ出かけて、講師から写真の撮り方を教えていただきました。センター「つどい」に集合後、信貴山口駅まで徒歩と電車で移動をしながら、撮影を行いました。

講師から次の内容をお教えいただき、大変参考になりました(以下、要点)。

- ・ 色んな目線で見、「楽しいな」、「おもしろいな」と思ったものを撮りましょう。
- ・ カメラの使い方は、取扱説明書で覚えると色々な撮り方ができるようになります。
- ・ 撮りたい画像を予想しながら、撮影するのほひとつのコツです。
- ・ 写真を撮ると、街の色んなことに気づき、発見するのが撮影の良い点です。
- ・ 人に見せられる写真を撮影できることを目標にすると、色んなものを見る目が養われます。

参加者の方で石橋がうまく撮影できないと講師に相談されたのですが、講師が参加者のデジタルカメラを使って撮影すると、すんなりといい画像が撮れました。上記の教えを習得すると、自分の思った通りの撮影ができることを間近で拝見いたしました。

地域の再発見として、写真撮影で出かけるのも良いなと感じました。また春にも出かけたいですね。



▲ 講師からデジタルカメラの使い方をレクチャー



○ 「興味深い話をありがとうございました。」

○ 「菊はかりではなく、花卉(かき)栽培全体が明治の後半から始まり、昭和になって更に盛んになったようです。」

○ 「高安地域では、いつ頃から栽培が始まったのですか。」

○ 「菊花ばかりではなく、花卉(かき)栽培全体が明治の後半から始まり、昭和になって更に盛んになったようです。」

○ 「平成7年には、農林水産省選定「第4回美しい日本のむら景観コンテスト」において八尾市神立地区が『花の里―神立』として全国森林組合連合会長賞集落部門で受賞されています。」

○ 「へえ、すごいですやん。」

○ 「そうですね。ところで電照菊というのをご存知ですか。」

○ 「そうですね、学校でならった覚えがありますわあ。」

○ 「神立地区は電照菊で有名です。それで、この地区で電照菊のパイオニア的存在として手広く栽培しておられたS氏に聴きました。冬の寒い花の少ない時に出荷するため、苗を植える時点で、蕾(つぼみ)をつける時期を計算し電照する時期を計算に入れてあるらしいです。おおよそ彼岸の中日を目安にして点灯しますが、菊の種類により対応はちがうそうです。また菊以外の花も電照するそうです。使用電球は60Wか100Wを用い、3mに100Wを1個の割合で3mおきに電球1個を吊るすそうです。」

○ 「点灯時間は大体2時間だそうです。夜中は電気代が安くなるのでそれも考慮して点灯時刻は栽培主の方針により異なるらしいです。」

○ 「その電照菊栽培はいつごろ、盛んだったのですか。」

○ 「1990年に大阪市鶴見区で開催された『国際花と緑の博覧会(花博)』の頃、特に花博の前が最盛期だったそうです。神立地区の花農家さんのほとんどが電照菊をやっていたらしいです。花博だから当然のことかと思えます。けれど、バブルの崩壊とともに右さがりになってきたようで、昨今では電照処理をしているところは10か所ほどです。そして菊ではなく、クジャ草が多いらしいです。」

歴史民俗シリーズ 八尾 なんやかや 10
 でんしやうぎく
 「高安の電照菊」